

<牧師室から>

週二回、教会と八王子の自宅とを車で往復しながら気づいたことがあります。緊急事態宣言が出てからは交通量も減り、まわりの景色がよく見えるようになったということに。あれ？こんなところにこんなお店が…緊急事態宣言が出る前はカーチェイス状態に神経を尖らせていたような通りも少し余裕で車を走らせています。ここにも確かに人々の営みがあったのだ…どのような営みなのかな…ということなどあれこれ想像もしています。もちろん注意を怠らないよう安全運転には努めています。人類の文明は時間短縮にも貢献し、いわゆる現代社会は計画通り、時間通りに間に合うようスピードアップを図る歴史をかたちづくってきたように思います。しかし緊急事態宣言で社会には、スピードを落とすことで、豊かに見えてきているものがすでにあるのかも知れません。在宅礼拝プログラムの週報を郵送している方々には、住所が正しいのに教会へ戻ってきてしまう、翌週後半になってようやく届く、などご不便をおかけすることも起こっています。しかしそのようなご報告をお電話くださるときにも、「今の郵便事情を見て、これまでは当たり前だと思っていたことがそうではなかった」、「自分の当たり前のためにどれほど多くの人たちの支えがあったことか」、などのお言葉をいただき、慰められています。2019年度、大宮バプテスト教会が選び取った年間聖句「ピルピ 4:4,6」、主題「主にあって いつも喜ぶ」が、今も私たちを守り支えてくれていることに感謝いたします。

<在宅礼拝にあたって>

できる限り日曜 11:00~12:00 に下記の在宅礼拝プログラムをご一緒しましょう。教会堂で共に礼拝を捧げていた時を思い起こし、励みにしていただきたいと思います。なお難しい方には時間の都合のつく折にささげてください。

教会堂での礼拝の場合、御言葉や祈りは司会者のことば（声）を通して聞く、賛美歌は奏楽者のリードで会衆一同、歌うことによって捧げていますが、在宅の礼拝の場合は、以下を参考にして、夫々の工夫によってささげましょう。わからないことは、牧師にお尋ねください。

・「招詞」

招きのみ言葉です。

この礼拝に招かれていることを感謝し、聖書のみ言葉に聴きましょう。

・「聖書」

御言葉をゆっくり味わいましょう。音読するなどの方法もおすすめてです。

・「感謝と献金の時」

献金は、感謝と献身の表しとして捧げられるものです。1週間の出来事を思い起こしての感謝と応答の祈りをささげましょう。

・「賛美」

歌詞を読んで味わうなどでも結構です。ユーチューブに収録されている賛美に声をそろえるなどの方法も考えられます。

・「メッセージ」

「メッセージ」をお読みください。

・「祈祷」

メッセージから受けた恵みや、祈りの課題を含め示されたところを祈りましょう。

・「頌栄」

牧師の祝祷を受けることはできませんが、「ベネディクション」の賛美を通して主の祝福を受けましょう。

<在宅礼拝プログラム>

- ・招 詞 ヨハネの第一の手紙 1章 1～3節
- ・賛 美 新生讃美歌 4 2 6 番 「かたりませ主よ」
- ・感謝と献金の時
- ・主の祈り
- ・聖 書 使徒行伝 3章 1～10節 （口語訳新約聖書 184 頁）
- ・メッセージ 「彼の身に起ったこと」
- ・祈 祷
- ・賛 美 新生讃美歌 3 9 1 番 「向こう岸へ渡ろう」
- ・頌 栄 新生讃美歌 6 7 9 番 「ベネディクション」
- ・黙 祷

<メッセージ>

貨幣社会においては、お金は生きるために必要不可欠とされます。経済流通こそが命を支えるという見方が成り立ちます。今、日本で非常事態宣言が解除されるかどうかについて命の安全だけで判断できないのもそういうことでしょう。命の安全だけで考えるなら治療法が特定されるまで解除できないということにもなるでしょう。本日の聖書箇所での施しを乞うて生きる人の姿は、非常事態宣言があっても外出せざるを得ない人々の生き様とどこか重なるようなところがあるような気がしています。施しを乞う、という日々は、単なる好み

として選り取られていたわけではないでしょう。たとえ外に出たくない日でも出ていかざるを得なかったことでしょうか。とにかくお金を手に入れて、生きるために。そして現代、われわれも今、命の安全だけを思うなら、外出を控えるように言いたい。でも生きていくために出かけていく人たちがいるのです。また誰かを生かすため、いや、共に生きるために出かけていく人たちもいるのです。そういう人たちも支えられるような言葉はもっと無かったのだろうか…あらためて考えさせられています。

彼は礼拝に来る人たちに施しを乞うていました。(2節) 当時、礼拝に来る人たちは施しをする、ということが当たり前だったのででしょうか。ところが本日の聖書箇所では施しをしない人たちが登場します。初代教会の二人、ペテロとヨハネです。そして代わりに言うのです、施しを乞うている彼をじっと見ながら言うのです、「わたしたちを見なさい」。(4節) 今まで私たちは職場、学校、家庭で、お互いに見つめ合うようなときはどれくらいあったでしょうか。心を通わせるためには時間がかかります。お金だけ渡してさっと過ぎ去るようなところに通い合う心などありません。お互いの心を、気持ちを知る、それこそが見つめ合うことではないでしょうか。聖書教育 p.50 にはこうあります。“…「私たちを見なさい」。これは「私たちに心を向けて、心で感じて見なさい。私たちにしっかり向かい合ってみなさい」という意味でしょう。”

救い主イエス・キリストの名によって起こされた出来事は、目標、正解に到達すればそれで良いというような出来事ではありませんでした。実際、立ち上がった彼は礼拝者としての振る舞いを整然と進めてはいません。「踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った。民衆はみな、彼が歩き回り、また神をさんびしているのを見、…」(8~9節) 心を解き放つ、思いを解き放つ、豊かな意思表示です。手際よくお金を手渡した手渡される関係の中では見えなかった心が、効率よくお金が行き来するところでは見えなかった心が、豊かに解き放たれていく先に、生きる喜びに満ちた礼拝が待っていたのではないのでしょうか。今、幾人かの方から献金ができず心苦しいというご連絡をいただいています。口に出せなくともそのような思いを抱えている方もいらっしゃることでしょう。またステイホーム(家にとどまりなさい)という呼びかけを後にして出かけていく方々もいらっしゃることでしょう。しかし礼拝は、そのような“心ならずも”、“やむを得ず”という思いをも受けとめる恵みです。在宅礼拝はそのような恵みで、すでに私たちに共に満たしてくれているのではないのでしょうか。また喜び、感謝はもちろんのこと、困っていること、つらいことで皆で共有したいことも、祈りの課題としてお寄せいただければ幸いです。

<祈りの課題>

- ・新型コロナウイルス感染の沈静化、および治療法、治療体制確立のために。
苦しみと不安の中にある方々に主の平和が訪れますように。
- とくに高齢、またお一人暮らし、また施設に入所されている方々のために。

- ・子育て中のご家庭のために、子供たちのために。
- ・入学式延期で不安の中にある方々を覚え、新年度準備が守られますように。

<報告>

*政府の緊急事態宣言が5月31日までに延長されたことを受け、当教会では、在宅礼拝を5月31日まで延期します。また、諸集會を休止としている現在の対応も、5月31日まで延長します。

今後の状況によって期限の変更を行う場合は、改めてお知らせします。

*5月31日に予定していた定期総会は延期します。新たな開催期日は今後執事会で協議し、決定次第お知らせします。

ご質問等がございましたら、教会までお問い合わせください。048-641-9153

- ・日本バプテスト連盟 HP にバプテスト誌4月、5月号が掲載されています。本誌が手元になくても在宅での分かち合いが可能です。感謝です。ぜひご活用ください。

HP アドレス https://www.bapren.jp/?joumu_cat=baptistnews

- ・日本バプテスト連盟 HP に聖書教育誌4月～6月号が掲載されています。本誌が手元になくても在宅での教会学校の学びが可能です。感謝です。ぜひご活用ください。

HP アドレス <http://www.bapren.com/>

- ・日本バプテスト連盟宣教研究所 HP に「宣教ニュースレター」HP 限定号外、および「新型コロナウイルス感染拡大に伴うストレスに対処するための視点」が掲載されています。

HP アドレス http://senken-bap.com/category/news_letter/